

《特選》

人との違い

近江高等学校 三年

ながはら
永原 優 さん

私は町を歩いていても人にジロジロ見られることがよくあります。私は黒人ハーフです。小学生の頃から周りの人と見た目の色が違うという理由でいやがらせを受けていたことがありました。例えば、授業でのグループワークでいつも一人あまっていたりしていました。高校生になった今では学校でのいやがらせは無くなりましたが、公共の場で少し疑問に思うことはあります。それは、電車の席に座っているといつも私の隣だけは誰も座らないんです。ネットでも日本に旅行に来た黒人の方が電

車に乗ると、その方の隣は人がいないという動画を見たことがあります。他の国ほど分かりやすい人種差別が無い事で有名な日本ですが、日本人も無意識のうちにそういった差別をしてしまっている人が少なくはありません。

私は小さい頃は人と見た目が違うのがものすごくコンプレックスで、目立ちたがりな性格でもないのに、見られる事がすごくプレッシャーに感じていました。小さいながらに当時から色々な思いと戦っていました。白いパウダーを体にかけてみたり、消しゴムで肌をこすってみたり、今では考えられないような事もしていました。ただ肌の色が違うだけでどうして私がこんな思いをしないといけないのか、たくさん悩んできました。人と違うからといった理由でチャレンジ

できなかつたこともありま
す。母がよく私に、
「あなたのその肌の色が本
当に羨ましい。」

と、言っていました。昔は何
がそんなに羨ましいのだろ
うと思っていました。が、今に
なつてその意味が分かるよ
うになつてきた気がします。
母が私に伝えたかったのは、
(他人との違いに堂々と胸
を張れるようになりなさい)
と伝えたかったのではない
のかなと思います。

今、他人との違いがコンプレックスで悩んでいる人達に伝えたいのは、他人に自分のマネはできないのだから、自分を受け入れ、自分を好きになつて、自信を持つて外を歩いてほしいと伝えたいです。他人の視線なんか悩んでいる人が一人でも多く減るような社会になつてほしいです。

《選評》

人種差別は、日本ではあまり顕著に表れていませんが、人を見た目で判断してしまふことはあると思います。この作品では、自身の肌の色にコンプレックスを抱き、悩んでいた筆者が、母親の思いを理解してコンプレックスを克服していきます。実体験をもとに深く考えていて、筆者の気持ちを読む者の心にダイレクトに入ってくる良い作品だと思います。

(北川 博)